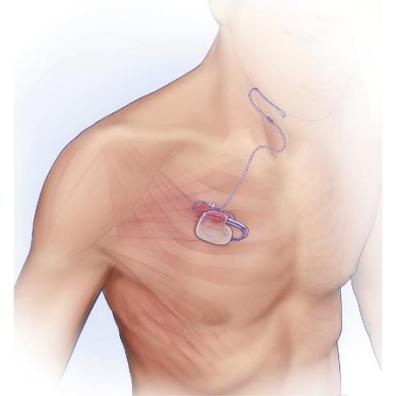


## 九州初！産業医科大学病院が睡眠時無呼吸の最新治療 「舌下神経電気刺激療法」を開始

産業医科大学病院は、「閉塞性睡眠時無呼吸症候群」の治療に積極的に取り組んでおります。検査体制も充実しており、非常に多くの患者さんが通院されております。この度、閉塞性睡眠時無呼吸症候群に対する新しい治療法「舌下神経電気刺激療法」を導入し、耳鼻咽喉科・頭頸部外科において2025年1月に第1例目の手術を実施しました。

九州で初、日本全国で13施設目です。本手術の実施医が2名在籍しており、今後もさらに本治療に取り組んでいきます。



### ◆閉塞性睡眠時無呼吸とは？

睡眠中の呼吸運動が行われているにもかかわらず、上気道の閉塞のために適切な呼吸が出来ず無呼吸や低呼吸となるものです。主な症状として、睡眠時に起こる呼吸停止、日中の強い眠気、起床時の頭痛、集中力の低下が挙げられます。

### ◆舌下神経電気刺激療法とは？

CPAP治療※1が継続できない中等症以上の「閉塞性睡眠時無呼吸症候群」の患者に対して行う保険適用の治療法です。

外科手術により、小型デバイスシステム「舌下神経電気刺激装置」を完全に体内へ植込みます。

夜間の呼吸に合わせて、舌下神経という舌の動きをつかさどる神経に電気刺激を与えることで、舌根（ぜっこん）を持ち上げらせて気道が閉塞しないように作動します。気道が広がることにより、快適な睡眠が得られることが期待されます。

※1 CPAP（シーパップ：持続陽圧呼吸療法）とは、機械で圧力をかけた空気を鼻から気道（空気の通り道）に送り込み、気道を広げて睡眠中の無呼吸を防止する治療法です。

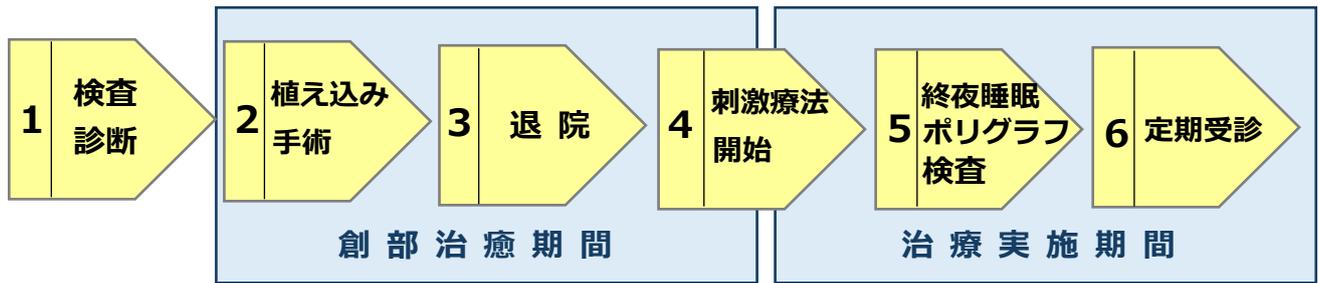
### 舌下神経電気刺激療法の適応条件

次の条件を全て満たす方は、「舌下神経電気刺激療法」を受けられる可能性があります。

- ・18歳以上
- ・高度肥満ではない（BMI 30未満）
- ・CPAP療法が継続困難である
- ・中等度から重度の閉塞性睡眠無呼吸（AHI 20以上）
- ・中枢性無呼吸の割合が25%以下
- ・重度の解剖学的異常がないこと
- ・薬物睡眠下内視鏡検査で不適応と診断されないこと

※上記の条件に該当しても、別の理由により適応外となる場合もあります。

## ◆舌下神経電気刺激療法 治療プロセス



### 1 検査（薬物睡眠下内視鏡検査）

静脈麻酔を使用し、気道の状態を調べます（1泊入院）。

### 2 植え込み手術（術後約1週間で退院）

全身麻酔下で行われ、約2～4時間かかります。胸部と頸部に皮膚切開を加えます。

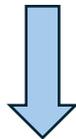
### 3 刺激療法開始

植え込み手術から約1か月後の外来受診時に開始となります。

- ・リモコンでオン／オフを行う。
- ・就寝時にSleepリモコンをオンにすると設定された時間後に刺激が開始されます。



毎月の受診を推奨



### 4 終夜ポリグラフ検査（1泊2日）

治療になれ、終夜・毎晩の使用が確認されたら、終夜ポリグラフ検査を行います。目安は、刺激療法開始から約3～4か月後です。

### 5 定期受診

治療が適切に行われているか、創部の状況に異変がないかなど、担当医師が確認します。

## 【舌下神経電気刺激装置植込み実施医】

堀 龍介、北村 拓朗（耳鼻咽喉科・頭頸部外科）

## 【舌下神経電気刺激療法に関するお問合せ先】

産業医科大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科

准教授 北村 拓朗 E-mail: kitamura@med.uoeh-u.ac.jp

## 【取材に関するお問合せ先】

学校法人産業医科大学 総務部 総務課 広報室

TEL: 093-588-2030 E-mail: sbkoho@mbox.pub.uoeh-u.ac.jp